

第4回 諸外国における対日メディア世論調査 調査結果

新聞通信事業に関する調査研究、資料収集、講演会の開催などを行っている公益財団法人新聞通信調査会（理事長 西沢豊）は、2018年1月に「諸外国における対日メディア世論調査」を実施した。

調査は、アメリカ・イギリス・フランス・中国・韓国・タイの6カ国において、各国約1,000人の回答を得た。アメリカ・フランス・韓国は電話調査、イギリス・中国・タイは面接調査で行った。

「対日メディア世論調査」は2015年1月、2016年1月、2017年2月にもこの6カ国で行っており、今回調査は4回目となる。主な調査結果は以下の通りである。

主な調査結果

「フェイクニュース」言葉の認知率、ニュース接触時の意識は、欧米諸国とアジア諸国間で差

・フェイクニュースという言葉を知っているという人は、アメリカで74.8%と最も多く、イギリス・フランス・中国で50%台、韓国で33.8%、タイで14.5%となった。昨年11月に新聞通信調査会が国内で実施した「メディアに関する全国世論調査」では、フェイクニュースという言葉を知っているという人が41.9%であった。（資料1ページ 図表1）

・フェイクニュースという言葉の説明をした上で、ふだんニュースに接する時にフェイクニュースがあるかもしれないと意識しているか尋ねたところ、「意識している」と答えた人がアメリカで82.7%と最も多く、イギリス・フランスで70%台、中国・韓国で50%台、タイで31.2%となった。昨年11月実施の「メディアに関する全国世論調査」では、「意識している」と答えた人が41.4%であった。（資料2ページ 図表2）

・フェイクニュースの拡散を防ぐために、何らかの規制が必要と思うか尋ねたところ、アメリカは「業界による自主規制が必要だと思う」26.1%、「NPOなど有志等による民間の検証が必要だと思う」26.0%、「規制や検証は必要ないと思う」24.1%の3つに意見が分かれた。イギリス、中国、韓国、タイでは「政府による規制が必要だと思う」と答えた人の割合が他の回答より多かった。フランスでは「NPOなど有志等による民間の検証が必要だと思う」が52.2%と最も多かった。昨年11月実施の「メディアに関する全国世論調査」では、「業界による自主規制が必要だと思う」と答えた人が39.3%で最も多かった。（資料3ページ 図表3）

2018年3月
公益財団法人 新聞通信調査会

ネットニュースを見る時に、ニュースの出所を気にするのは、タイが92.1%で最多、アメリカ・フランス・中国が80%前後、イギリス・韓国が60%台

・インターネットのニュースを見る時に、ニュースの出所を気にするか尋ねたところ、6カ国すべてで「気にする」（「いつも気にする」と「まあ気にする」の合計）が60%以上となり、「気にしない」（「全く気にしない」と「あまり気にしない」の合計）を大きく上回った。「気にする」と答えた人は、タイが92.1%で最も多く、アメリカ・フランス・中国が80%前後、イギリス・韓国が60%台であった。そのうち、「いつも気にする」のはフランスが54.7%で最も多く、アメリカ48.9%、イギリス33.5%であった。韓国24.0%、中国19.3%、タイ17.1%は欧米諸国より少なかった。昨年11月実施の「メディアに関する全国世論調査」では、「気にする」と答えた人が42.5%、そのうち「いつも気にする」のは10.4%であった。（資料4ページ 図表4）

政治家が発信する SNS の情報の方を信頼するのは中国、他の5カ国はメディアの報道する情報の方を信頼するも国によってばらつき

・政治家が個人的に発信する SNS の情報とテレビや新聞などが報道する情報のどちらを信頼するか尋ねたところ、中国では「政治家が個人的に発信する SNS の情報の方を信頼する」が49.4%で、「テレビや新聞などが報道する情報の方を信頼する」の35.0%を上回った。一方、他の5カ国では、「テレビや新聞などが報道する情報の方を信頼する」と答えた人の割合が「政治家が個人的に発信する SNS の情報の方を信頼する」を上回った。「テレビや新聞などが報道する情報の方を信頼する」の割合はアメリカ72.5%、タイ64.0%、イギリス63.2%、韓国60.5%、フランス56.0%。（資料5ページ 図表5）

ニュース視聴の利用媒体はアメリカ・イギリス・フランス・韓国・タイはテレビが1位、中国はインターネットが1位

- ・ニュース視聴の利用媒体は、アメリカ・イギリス・フランス・韓国・タイはテレビが1位、中国はインターネットのニュースサイトが1位。（資料6ページ 図表6）
- ・2位にはアメリカ・イギリス・フランス・韓国はインターネットのニュースサイト、中国はテレビ、タイはSNS (facebook、twitter など)。（資料6ページ 図表6）
- ・ネットニュースや SNS を見るのに使用する機器は、フランスのみ「パソコン」が1位、他の5カ国は「スマートフォン・携帯電話」が1位。（資料6ページ 図表7）

新聞の情報信頼度は、前年よりイギリス 4.6 点、中国 2.8 点、フランス 2.2 点の上昇

・新聞の情報をどの程度信頼しているかを、全面的に信頼している場合は 100 点、全く信頼をしていない場合は 0 点、普通の場合は 50 点として点数をつけてもらったところ、タイが 66.4 点で前年より 1.0 点の低下、中国が 65.0 点で 2.8 点の上昇、アメリカが 58.2 点で 0.9 点の低下、フランスが 57.9 点で 2.2 点の上昇、韓国が 56.0 点で 0.5 点の低下、イギリスが 55.6 点で 4.6 点の上昇であった。昨年 11 月実施の「メディアに関する全国世論調査」では、新聞の情報信頼度は 68.7 点であった。(資料 7 ページ 図表 8)

・新聞の役割については、すべての国で「インターネットなどの普及により新聞の役割が小さくなっていく」が「今までどおり、新聞が報道に果たす役割は大きい」を上回った。「新聞の役割が小さくなっていく」は、タイで 81.9% と最も多く、中国で 71.4%、アメリカで 62.0%。イギリス・フランス・韓国では 50% 台。(資料 8 ページ 図表 9)

「世論調査は、人々の意見を正しく反映している」と思うのは、中国・タイで 70% 台、アメリカ・イギリス・フランス・韓国は 50% を下回る

・テレビ・新聞などのマスメディアで報道される世論調査の結果は、人々の意見を正しく反映していると思うか、尋ねたところ、「そう思う」が中国・タイで 70% 台であったが、アメリカ・イギリス・フランス・韓国で 50% を下回った。フランスでは世論調査が人々の意見を正しく反映していると思わない人が 60% 強。(資料 9 ページ 図表 11)

「報道の自由は常に保障されるべきだ」に各国 80% 以上の支持があるも、「報道の自由を振りかざしている」にも 50% 以上が賛同

・「報道の自由は常に保障されるべきだ」については、「そう思う」がフランス・韓国・タイで 90% を超え、アメリカ・イギリス・中国で 80% 台。(資料 10 ページ 図表 12 (1))

・「現在の報道を見ていると、圧力をかけられても仕方がないと思う」については、「そう思う」が中国で 80%、次いでタイで 77%。アメリカ・イギリス・フランス・韓国で 50% を超えた。(資料 10 ページ 図表 12 (2))

・「政府が国益を損なうという理由でメディアに圧力をかけるのは当然だと思うか」については、「そう思う」がタイで 80% 超、イギリス・中国で 70% 台、アメリカで 60%、韓国で 50% 強。フランスで 50% を下回った。(資料 11 ページ 図表 12 (3))

・「メディアは報道の自由を振りかざしていると思うか」については、「そう思う」がイギリス・韓国で 70% 台。アメリカ・フランス・中国・タイで 50% を超えた。(資料 11 ページ 図表 12 (4))

日本のメディアの認知度は韓国が突出

- ・日本のメディアの認知度は韓国が突出して高く、中国がそれに次いだ。欧米3カ国では「知らない」人が70%以上、アメリカでは86%。知っているメディアでは、「NHK(ワールドTV、ラジオジャパンなど)」がすべての国で1位。(資料12ページ 図表13)
- ・日本のことが報道されると関心を持って見聞きするのは、タイで80%。フランス・韓国で60%台、アメリカ・中国で50%台。イギリスでは50%を下回った。(資料12ページ 図表14)

日本についての知識や情報の入手先は「自国のテレビ、新聞、雑誌」、メディアに期待する報道内容は「科学技術」

- ・日本についての知識や情報の入手先は、中国以外の5カ国で「自国のテレビ、新聞、雑誌」が1位、「インターネット」が2位。中国では「インターネット」が1位、「自国のテレビ、新聞、雑誌」が2位。(資料13ページ 図表15)
- ・日本に関する報道で、メディアに期待する内容を挙げてもらった。1位は、タイを除く5カ国では「科学技術」、タイでは「観光情報」。2位には、アメリカ・イギリスは「国際協力、平和維持活動」、フランスは「生活様式や食文化」、中国は「観光情報」、韓国は「政治、経済、外交政策」、タイは「科学技術」が続いた。(資料13ページ 図表16)

日本に対する信頼度は中国・韓国で20%前後

- ・日本について「信頼できる」はタイで96.2%、アメリカで81.0%、フランスで80.5%。イギリスは67.8%。中国は23.9%、韓国は19.2%と極端に低かった。(資料14ページ 図表17)
- ・昨年度からの変化では、タイで7.2ポイント、中国で7.0ポイント、韓国で5.4ポイント、アメリカで4.3ポイント、イギリスで2.4ポイント、いずれも信頼感が増した。(資料14ページ 図表17)

訪日経験があるのは韓国で52%、アメリカ・中国は10%前後

- ・訪日経験があるのは韓国で52.2%。アメリカ・中国は10%前後。イギリス・フランス・タイは5%以下。(資料14ページ 図表18)

アメリカへの好感度はイギリス・フランスで上昇に転じた 中国への好感度は欧米3カ国で上昇 日本への好感度はアジア3カ国で上昇 中国・韓国は相互間の好感度が昨年到现在低下

・イギリス・フランスでの、アメリカへの好感度は、前回調査で前々回調査より 20 ポイント前後低下したが、今回調査では上昇に転じ、フランス 5.3 ポイント、イギリス 3.0 ポイントの上昇となった。イギリス・フランスは相互に好感度が高く、フランスのイギリスへの好感度は 6.8 ポイントの上昇となった。(資料 15 ページ 図表 19)

・中国と韓国の相互の好感度は、共に前回調査で大きく低下したが、今回もさらに低下し、共に 30% 台。(資料 15 ページ 図表 19)

・日本に対する好感度はタイ 98.3%、アメリカ 83.6%、フランス 81.1%、イギリス 66.6%。タイは 6.7 ポイントの上昇となったが、アメリカ・フランス・イギリスはわずかながら低下。中国・韓国は前回調査での好感度低下から今回調査では上昇に転じ、中国は 4.5 ポイント上昇の 27.9%、韓国は 8.3 ポイント上昇の 38.3%。(資料 15 ページ 図表 19)

・アメリカは依然イギリス、日本、フランスへの好感度が高いが、中国への好感度が 5.6 ポイント上昇し 55.6%。中国はフランス・イギリス・タイ・アメリカの順に、韓国はアメリカ・イギリス・フランス・タイの順に、タイは日本・イギリス・フランス・アメリカ・韓国・中国の順に 50% 以上の好感度。(資料 15 ページ 図表 19)

知っている日本人、中国・韓国・タイは「安倍晋三」、 アメリカ・イギリス・フランスは「昭和天皇」が1位

・知っている日本人の名前を1人挙げてもらったところ、中国・韓国・タイは「安倍晋三」が1位。アメリカ・イギリス・フランスは「昭和天皇」が1位。(資料 16 ページ 図表 20)

・2位には「安倍晋三」(アメリカ)、「オノ・ヨーコ」(イギリス)、「ナルト(漫画「ナルト」)」(フランス)、「福原愛」(中国)、「伊藤博文」(韓国)、「明仁天皇」(タイ)と分散。(資料 16 ページ 図表 20)

調査結果については、ホームページでも掲載します。

(新聞通信調査会 HP <http://www.chosakai.gr.jp/> 10日(土)掲載予定。)

調査の概要

●調査国と調査日程、調査方法、調査会社、調査地域

調査国	調査日程	調査方法	調査会社	調査地域
アメリカ	1月24日～28日	電話調査	S S R S	全国
イギリス	1月17日～21日	面接調査	T N S	全国
フランス	1月15日～23日	電話調査	C S A	全国
中国	1月12日～18日	面接調査	C R C リサーチセン ター	北京、上海、広州、瀋陽、 西安、成都、武漢、合肥、 南京、青島
韓国	1月9日～17日	電話調査	Gallup Korea	全国
タイ	12月22日～1月15日	面接調査	I P S O S Thailand	バンコク、チェンマイ、 ウドーンターニー、 ソンクララー

※電話調査では、複数回答の質問において、回答に偏りが出ないように、選択肢の読み上げ順をランダムにした。

●回収サンプルの構成

アメリカ	男性	502	51.6%	中国	男性	506	50.6%
	女性	470	48.4%		女性	494	49.4%
	10代(18-19歳)	28	2.9%		10代(18-19歳)	52	5.2%
	20歳代	118	12.1%		20歳代	236	23.6%
	30歳代	109	11.2%		30歳代	237	23.7%
	40歳代	120	12.3%		40歳代	251	25.1%
	50歳代	172	17.7%		50歳代	155	15.5%
	60歳代	183	18.8%		60歳代	68	6.8%
	70歳以上(70-98歳)	242	24.9%		70歳以上	1	0.1%
合計	972	100.0%	合計	1,000	100.0%		
イギリス	男性	493	47.2%	韓国	男性	508	50.3%
	女性	551	52.8%		女性	501	49.7%
	10代(16-19歳)	50	4.8%		10代(19歳)	20	2.0%
	20歳代	159	15.2%		20歳代	147	14.6%
	30歳代	181	17.3%		30歳代	143	14.2%
	40歳代	134	12.8%		40歳代	207	20.5%
	50歳代	130	12.5%		50歳代	228	22.6%
	60歳代	145	13.9%		60歳代	161	16.0%
	70歳以上(70-97歳)	245	23.5%		70歳以上(70-80歳)	103	10.2%
合計	1,044	100.0%	合計	1,009	100.0%		
フランス	男性	483	48.0%	タイ	男性	500	50.0%
	女性	524	52.0%		女性	500	50.0%
	10代(18-19歳)	32	3.2%		10代(18-19歳)	44	4.4%
	20歳代	135	13.4%		20歳代	236	23.6%
	30歳代	192	19.1%		30歳代	230	23.0%
	40歳代	170	16.9%		40歳代	260	26.0%
	50歳代	174	17.3%		50歳代	174	17.4%
	60歳代	138	13.7%		60歳代	46	4.6%
	70歳以上(70-97歳)	166	16.5%		70歳以上(70-80歳)	10	1.0%
合計	1,007	100.0%	合計	1,000	100.0%		

●質問一覧

質問	選択肢
問 1. 日本人で知っている人の名前を1人挙げてください。現在、存命中か否かは問いません。	
問 2. あなたは、次の国々についてどう思っていますか。(回答はそれぞれ1つずつ) (1)アメリカ (2)イギリス (3)フランス (4)日本 (5)中国 (6)韓国 (7)タイ	1 とても好感が持てる 2 やや好感が持てる 3 あまり好感が持てない 4 全く好感が持てない
問 3. あなたは、日本を信頼できる国だと思いますか。(回答は1つ)	1 とても信頼できる 2 やや信頼できる 3 あまり信頼できない 4 全く信頼できない
問 4. 日本についての知識や情報はどこから得ていますか。(回答はいくつでも)	1 自国のテレビ、新聞、雑誌 2 自分の家族や親戚、知人 3 インターネット 4 日本人の友人、知人 5 訪日経験 6 学校教育 7 得ていない
問 5. あなたは日本に行ったことがありますか。(回答は1つ)	1 行ったことがある 2 行ったことはない
問 6. あなたは、日本のメディアをご存知ですか。(回答はいくつでも)	1 NHK (ワールドTV、ラジオジャパンなど) 2 共同通信社 3 時事通信社 4 日本の新聞 (朝日、毎日、読売、日経、産経など) 5 知っているものはない
問 7. あなたは、日本のことが報道されると関心を持って見聞きますか。(回答は1つ)	1 とても関心がある 2 やや関心がある 3 あまり関心がない 4 全く関心がない
問 8. あなたは、次のことがらを自国のメディアが積極的に報道してほしいと思いますか。(回答はそれぞれ1つずつ) (1) 日本の政治、経済、外交政策 (2) 日本の国際協力や平和維持活動 (3) 日本の科学技術 (4) 日本の歴史と文化 (5) 日本の生活様式や食文化 (6) 日本のファッション、アニメ、音楽 (7) 日本の観光情報	1 積極的に報道してほしい 2 報道してほしい 3 あまり報道しなくてもよい 4 報道しなくてもよい
問 9. あなたは、ふだんニュースをどの媒体で視聴していますか。あてはまるものをすべてお答えください。(回答はいくつでも)	1 新聞 2 テレビ 3 ラジオ 4 インターネットのニュースサイト 5 SNS (facebook、twitter など) 6 雑誌
問 10. あなたは、インターネットのニュースやSNS (facebook、twitter など)を見る時に、何を使いますか (回答はいくつでも)	1 パソコン 2 スマートフォン・携帯電話 3 タブレット (例: iPad) 4 その他
問 11. あなたは、インターネットのニュースを見る時に、ニュースの出所 (報道機関名などの配信元)を気にしますか。(回答は1つ)	1 いつも気にする 2 まあ気にする 3 あまり気にしない 4 全く気にしない

質問	選択肢
<p>問 12. 現在のあなたの日常生活において、新聞の情報をどの程度信頼しているか、点数でお答えください。全面的に信頼している場合は100点、全く信頼していない場合は0点とし、普通の場合を50点としてお答えください。「新聞を読まない」あるいは「分からない」場合でも、大体の感じでお答えください。</p>	
<p>問 13. 将来の新聞についてどう思いますか。あなたの考えがAとBのどちらに近いかをお答えください。(回答は1つ) A インターネットなどの普及により新聞の役割が小さくなってくる B 今までどおり、新聞が報道に果たす役割は大きい</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 Aに近い 2 どちらかと言えばAに近い 3 どちらとも言えない 4 どちらかと言えばBに近い 5 Bに近い
<p>問 14. あなたは、報道の自由についてどう思いますか。(回答はそれぞれ1つずつ) (1) 報道の自由は常に保障されるべきだ (2) 現在の報道を見ていると、圧力をかけられても仕方がないと思う (3) 政府が国益を損なうという理由でメディアに圧力をかけるのは当然だと思う (4) メディアは報道の自由を振りかざしていると思う</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 そう思う 2 どちらかと言えばそう思う 3 どちらかと言えばそうは思わない 4 そうは思わない
<p>問 15. テレビ・新聞などのマスメディアで報道される世論調査の結果は、人びとの意見を正しく反映していると思いますか。(回答は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 そう思う 2 ややそう思う 3 どちらとも言えない 4 あまりそう思わない 5 そう思わない
<p>問 16. あなたは、フェイクニュースという言葉を知っていますか。(回答は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 知っている 2 聞いたことはあるが内容は分からない 3 知らない
<p>フェイクニュースとは、虚偽の情報でつくられたニュースのこと。2016年の英国・EU離脱の是非を問う国民投票や米国・大統領選の投票では、多くのフェイクニュースが拡散され、投票行動に影響を与えたと言われています。</p>	
<p>問 17. あなたは、ふだんニュースに接する時に、フェイクニュース(うそのニュース)があるかもしれないと意識していますか。(回答は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 意識している 2 意識していない 3 分からない
<p>問 18. フェイクニュースの拡散を防ぐために、あなたは、何らかの規制が必要だと思いますか。(回答は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 政府による規制が必要だと思う 2 業界による自主規制が必要だと思う 3 NPOなど有志等による民間の検証が必要だと思う 4 1～3のような規制や検証は必要ないと思う 5 分からない
<p>問 19. あなたは、政治家が個人的に発信するSNSの情報とテレビや新聞などが報道する情報のどちらを信頼しますか。(回答は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 政治家が個人的に発信するSNSの情報の方を信頼する 2 テレビや新聞などが報道する情報の方を信頼する 3 どちらとも言えない

第4回 諸外国における対日メディア世論調査

2018年3月発行

発行 公益財団法人 新聞通信調査会

東京都千代田区内幸町2-2-1

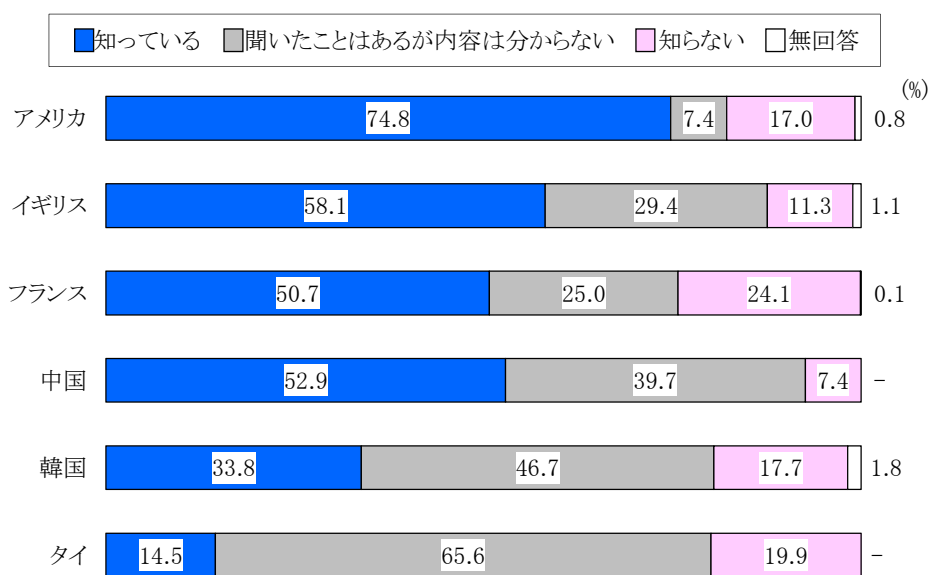
日本プレスセンタービル1階

電話 03-3593-1081

フェイクニュースという言葉の認知率は、アメリカで 74.8%と最多、イギリス・フランス・中国は 50%台、韓国 33.8%、タイ 14.5%

・ フェイクニュースという言葉を知っている人は、アメリカで 74.8%と最も多く、イギリス・フランス・中国で 50%台、韓国で 33.8%、タイで 14.5%となった。昨年 11 月に新聞通信調査会が実施した「メディアに関する全国世論調査」では、フェイクニュースという言葉を知っている」と答えた人が 41.9%であった。

図表 1 フェイクニュースという言葉の認知（問 16）



【参考：第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)より】



注1：アメリカは「よく知っている」「まあ知っている」「あまり知らない」「知らない」の選択肢で質問したので、「よく知っている」「まあ知っている」の回答を「知っている」、「あまり知らない」の回答を「聞いたことはあるが内容は分からない」、「知らない」の回答を「知らない」として集計した。

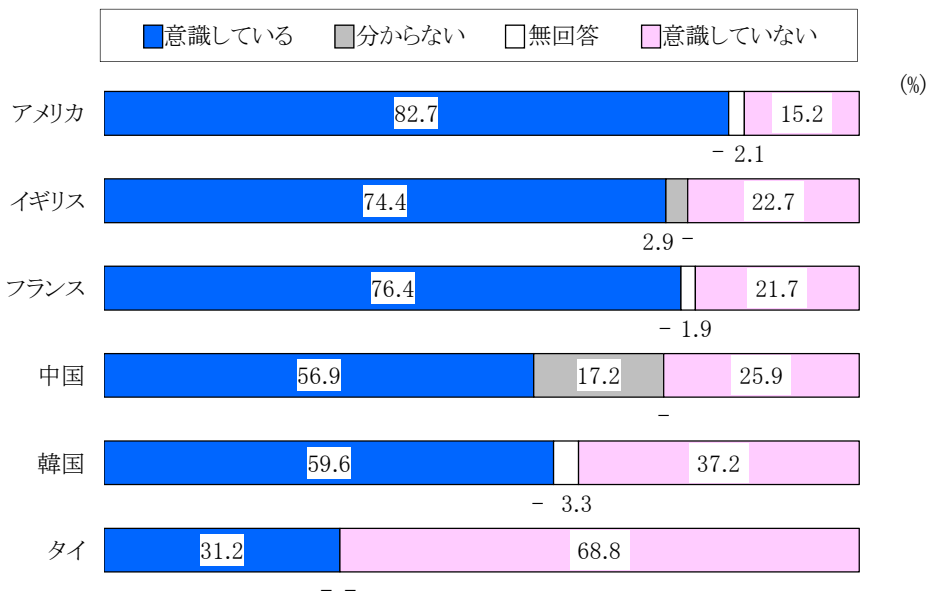
注2：「第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)」は2017年11月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い3,169人(有効回収率63.4%)から回答を得た。

ニュースに接する時にフェイクニュースを「意識している」のは、アメリカで82.7%と最多、イギリス・フランスで70%台、中国・韓国は50%台、タイ31.2%

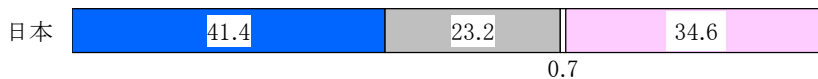
- ・ フェイクニュースという言葉の説明をした上で、ふだんニュースに接する時にフェイクニュースがあるかもしれないと意識しているか尋ねたところ、「意識している」と答えた人がアメリカで82.7%と最も多く、イギリス・フランスで70%台、中国・韓国で50%台、タイで31.2%となった。昨年11月に新聞通信調査会が実施した「メディアに関する全国世論調査」では、「意識している」と答えた人が41.4%であった。

図表2 ニュースに接する時に、フェイクニュースを意識しているか（問17）

フェイクニュースとは、虚偽の情報でつくられたニュースのこと。2016年の英国・EU離脱の是非を問う国民投票や米国・大統領選の投票では、多くのフェイクニュースが拡散され、投票行動に影響を与えたと言われています。



【参考：第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)より】

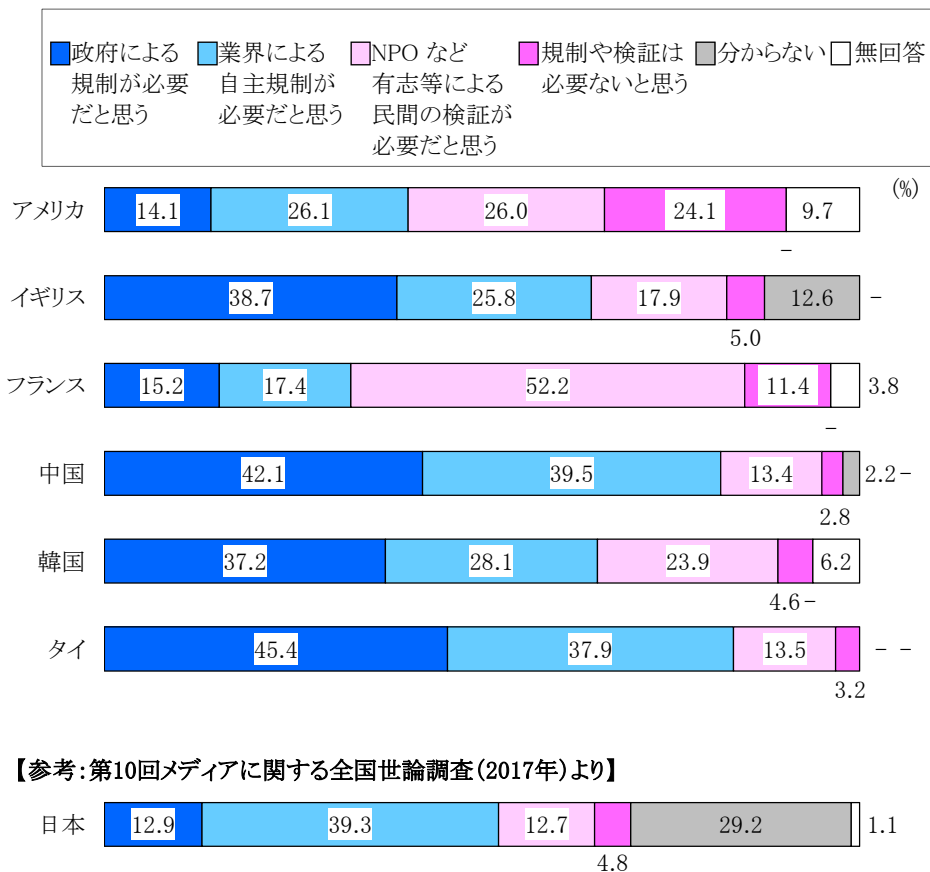


注：「第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)」は2017年11月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い3,169人(有効回収率63.4%)から回答を得た。

フェイクニュース拡散防止のための規制は、イギリス、中国、韓国、タイでは「政府による規制」、フランスは「NPO など有志等による民間の検証」、アメリカは意見が分かれた

・フェイクニュースの拡散を防ぐために、何らかの規制が必要と思うか尋ねたところ、アメリカは「業界による自主規制が必要だと思う」26.1%、「NPO など有志等による民間の検証が必要だと思う」26.0%、「規制や検証は必要ないと思う」24.1%の3つに意見が分かれた。イギリス、中国、韓国、タイでは「政府による規制が必要だと思う」と答えた人の割合が他の回答より多かった。フランスでは「NPO など有志等による民間の検証が必要だと思う」が52.2%と最も多かった。昨年11月に新聞通信調査会が実施した「メディアに関する全国世論調査」では、「業界による自主規制が必要だと思う」と答えた人が39.3%で最も多かった。

図表3 フェイクニュース拡散を防ぐための規制（問18）



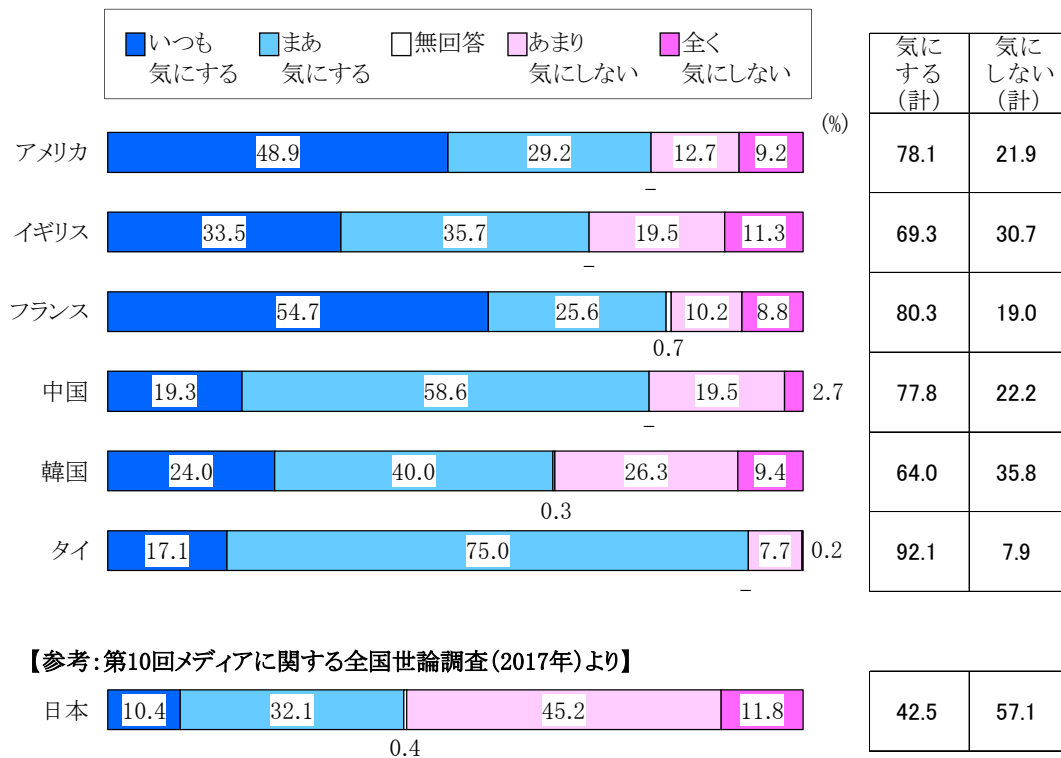
【参考：第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)より】

注：「第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)」は2017年11月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い、3,169人(有効回収率63.4%)から回答を得た。

ネットニュースを見る時に、ニュースの出所を気にするのは、タイが92.1%で最多、アメリカ・フランス・中国が80%前後、イギリス・韓国が60%台

・インターネットのニュースを見る時に、ニュースの出所を気にするか尋ねたところ、6カ国すべてで「気にする」（「いつも気にする」と「まあ気にする」の合計）が60%以上となり、「気にしない」（「全く気にしない」と「あまり気にしない」の合計）を大きく上回った。「気にする」と答えた人は、タイが92.1%で最も多く、アメリカ・フランス・中国が80%前後、イギリス・韓国が60%台であった。そのうち、「いつも気にする」のはフランスが54.7%で最も多く、アメリカ48.9%、イギリス33.5%であった。韓国24.0%、中国19.3%、タイ17.1%は欧米諸国より少なかった。昨年11月に新聞通信調査会が実施した「メディアに関する全国世論調査」では、「気にする」と答えた人が42.5%、そのうち「いつも気にする」のは10.4%であった。

図表4 ネットニュースを見る時に、ニュースの出所を気にするか（問11）

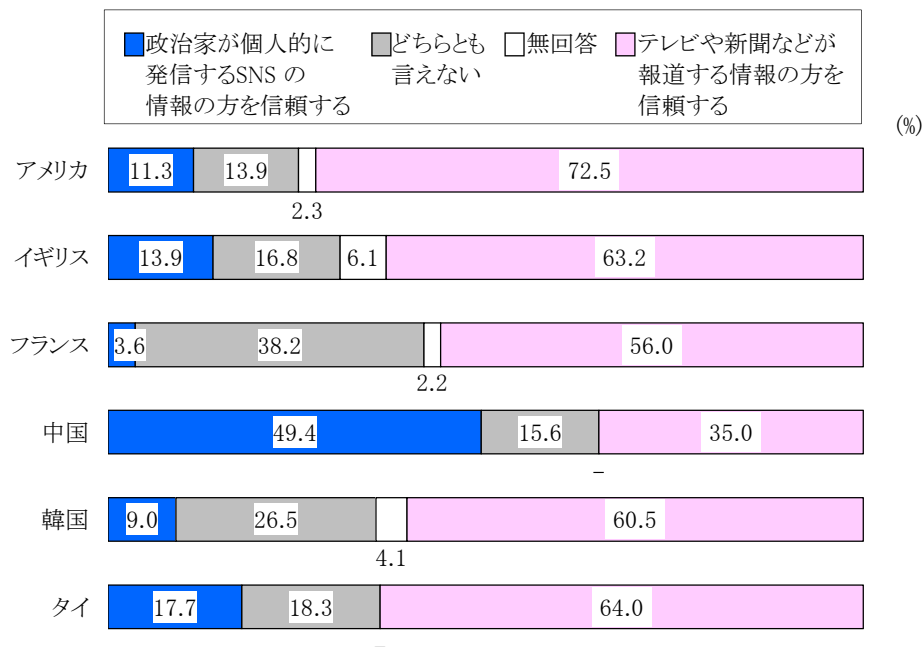


注：「第10回メディアに関する全国世論調査（2017年）」は2017年11月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い3,169人（有効回収率63.4%）から回答を得た。

政治家が発信する SNS の情報の方を信頼するのは中国、他の5カ国はメディアの報道する情報の方を信頼するも国によってばらつき

- 政治家が個人的に発信する SNS の情報とテレビや新聞などが報道する情報のどちらを信頼するか尋ねたところ、中国では「政治家が個人的に発信する SNS の情報の方を信頼する」が 49.4%で、「テレビや新聞などが報道する情報の方を信頼する」の 35.0%を上回った。一方、他の5カ国では、「テレビや新聞などが報道する情報の方を信頼する」と答えた人の割合が「政治家が個人的に発信する SNS の情報の方を信頼する」を上回った。「テレビや新聞などが報道する情報の方を信頼する」の割合はアメリカ 72.5%、タイ 64.0%、イギリス 63.2%、韓国 60.5%、フランス 56.0%。

図表5 政治家が発信する SNS の情報とメディアの報道どちらを信頼するか（問19）



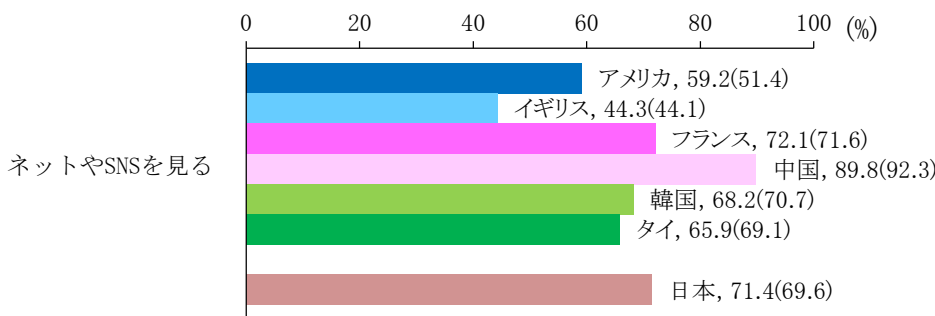
ニュース視聴の利用媒体はアメリカ・イギリス・フランス・韓国・タイはテレビが1位、中国はインターネットが1位

- ・ ニュース視聴の利用媒体は、アメリカ・イギリス・フランス・韓国・タイはテレビが1位、中国はインターネットのニュースサイトが1位（複数回答）。
- ・ 2位にはアメリカ・イギリス・フランス・韓国はインターネットのニュースサイト、中国はテレビ、タイはSNS (facebook、twitter など)。
- ・ ネットニュースや SNS を見るのに使用する機器は、フランスのみ「パソコン」が1位、他の5カ国は「スマートフォン・携帯電話」が1位（複数回答）。

図表6 ニュース視聴の利用媒体(複数回答) (問9) (%)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
アメリカ	テレビ 72.9(59.1)	インターネットのニュースサイト 50.0(41.3)	ラジオ 35.5(22.0)	新聞 31.8(25.8)	SNS (facebook、twitterなど) 30.8(20.9)	雑誌 18.9(11.1)
イギリス	テレビ 70.3(70.9)	インターネットのニュースサイト 37.3(37.6)	新聞 33.7(32.3)	ラジオ 25.1(26.9)	SNS (facebook、twitterなど) 18.2(18.2)	雑誌 3.4(4.3)
フランス	テレビ 83.3(86.2)	インターネットのニュースサイト 65.4(67.1)	ラジオ 64.3(67.0)	新聞 51.2(60.3)	SNS (facebook、twitterなど) 42.0(36.7)	雑誌 41.9(43.8)
中国	インターネットのニュースサイト 80.5(85.4)	テレビ 71.9(73.2)	SNS (facebook、twitterなど) 66.2(66.6)	新聞 30.0(38.3)	ラジオ 17.9(16.8)	雑誌 13.4(17.1)
韓国	テレビ 77.5(77.8)	インターネットのニュースサイト 63.3(66.8)	新聞 27.3(34.8)	SNS (facebook、twitterなど) 20.0(23.2)	ラジオ 10.4(14.7)	雑誌 6.2(7.5)
タイ	テレビ 90.8(92.0)	SNS (facebook、twitterなど) 63.1(63.0)	インターネットのニュースサイト 33.1(42.9)	新聞 26.6(45.1)	ラジオ 5.1(9.7)	雑誌 2.1(1.6)

図表7 ネットニュースや SNS を見る割合と使用機器(複数回答) (問9、問10)



↓

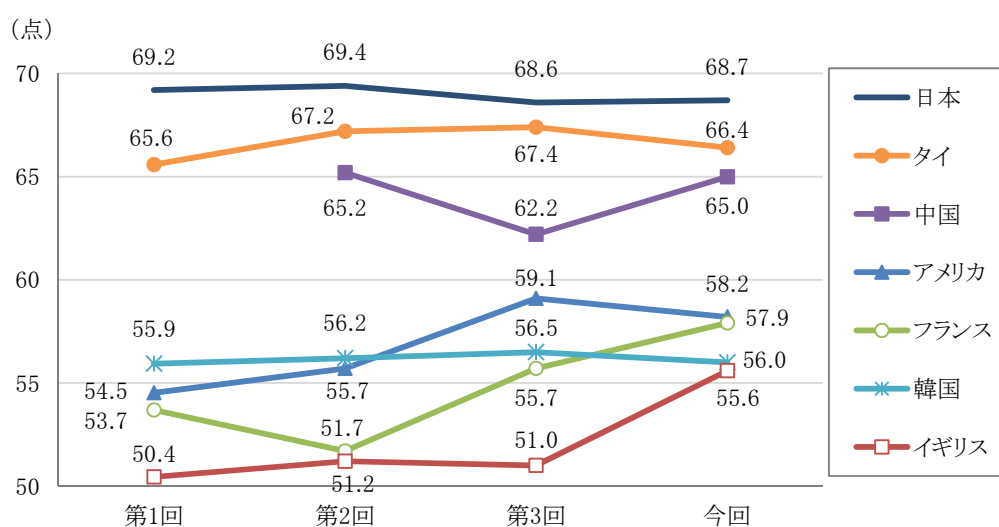
	1位	2位	3位
アメリカ	スマートフォン・携帯電話 45.6	パソコン 37.2	タブレット 22.7
イギリス	スマートフォン・携帯電話 35.4	パソコン 21.4	タブレット 13.8
フランス	パソコン 55.2	スマートフォン・携帯電話 52.0	タブレット 28.1
中国	スマートフォン・携帯電話 85.4	パソコン 65.3	タブレット 34.3
韓国	スマートフォン・携帯電話 60.3	パソコン 33.1	タブレット 10.1
タイ	スマートフォン・携帯電話 64.9	パソコン 12.4	タブレット 5.6
日本	スマートフォン・携帯電話 57.3	パソコン 28.8	タブレット 9.6

注：図表中の日本については第9回メディアに関する全国世論調査（2016年）より参考として表記
 ※「第10回メディアに関する全国世論調査（2017年）」は2017年11月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い、3,169人（有効回収率63.4%）から回答を得た。当該調査では「あなたは、パソコンやスマートフォン・携帯電話などを利用してインターネットのニュースをどの程度、見えていますか。」という質問に「見ている」と回答した人に対して「あなたは、インターネットのニュースを見る時に、何を使いますか。」と質問した。

新聞の情報信頼度は、前年よりイギリス 4.6 点、中国 2.8 点、フランス 2.2 点の上昇

- 新聞の情報をどの程度信頼しているかを、全面的に信頼している場合は 100 点、全く信頼していない場合は 0 点、普通の場合は 50 点として点数をつけてもらったところ、タイが 66.4 点で前年より 1.0 点の低下、中国が 65.0 点で 2.8 点の上昇、アメリカが 58.2 点で 0.9 点の低下、フランスが 57.9 点で 2.2 点の上昇、韓国が 56.0 点で 0.5 点の低下、イギリスが 55.6 点で 4.6 点の上昇であった。昨年 11 月に新聞通信調査会が実施した「メディアに関する全国世論調査」では、新聞の情報信頼度は 68.7 点（2016 年度 68.6 点、2015 年度 69.4 点、2014 年度 69.2 点）であった。

図表 8 新聞の情報信頼度（問 12）



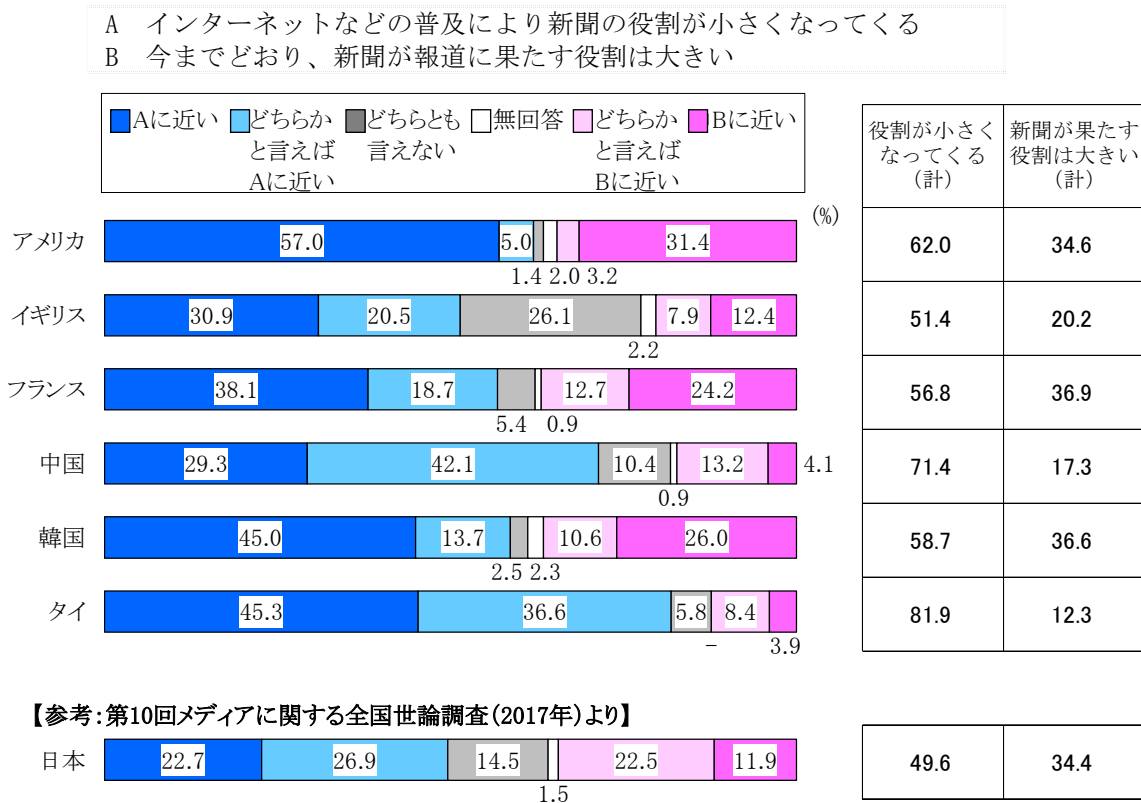
注 1：アメリカは 0 点～10 点で質問したので、回答の数値を 10 倍した。

注 2：「第 10 回メディアに関する全国世論調査（2017 年）」は 2017 年 11 月に全国 18 歳以上の 5,000 人を対象に訪問留置法で行い 3,169 人（有効回収率 63.4%）から回答を得た。

すべての国で「新聞の役割が小さくなっていく」が優勢

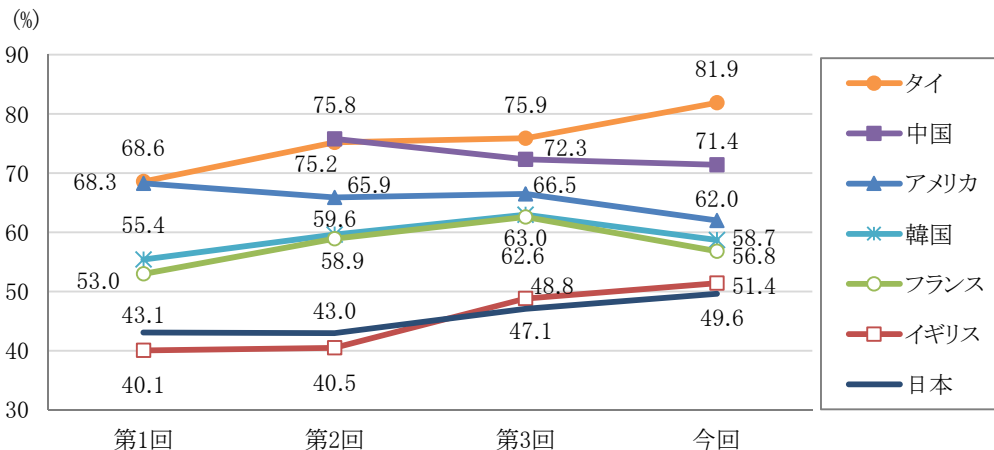
- 新聞の役割については、すべての国で「インターネットなどの普及により新聞の役割が小さくなっていく」が「今までどおり、新聞が報道に果たす役割は大きい」を上回った。「新聞の役割が小さくなっていく」は、タイで81.9%と最も多く、中国で71.4%、アメリカで62.0%。イギリス・フランス・韓国では50%台。昨年11月に新聞通信調査会が実施した「メディアに関する全国世論調査」では、「新聞の役割が小さくなっていく」が49.6%であった。
- 経年変化を見ると、「インターネットなどの普及により新聞の役割が小さくなっていく」は、タイ・イギリスでは上昇傾向、アメリカ・韓国・フランスは前回から低下、中国は横ばいであった。

図表9 将来の新聞の役割（問13）



注:「第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)」は2017年11月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い3,169人(有効回収率63.4%)から回答を得た。

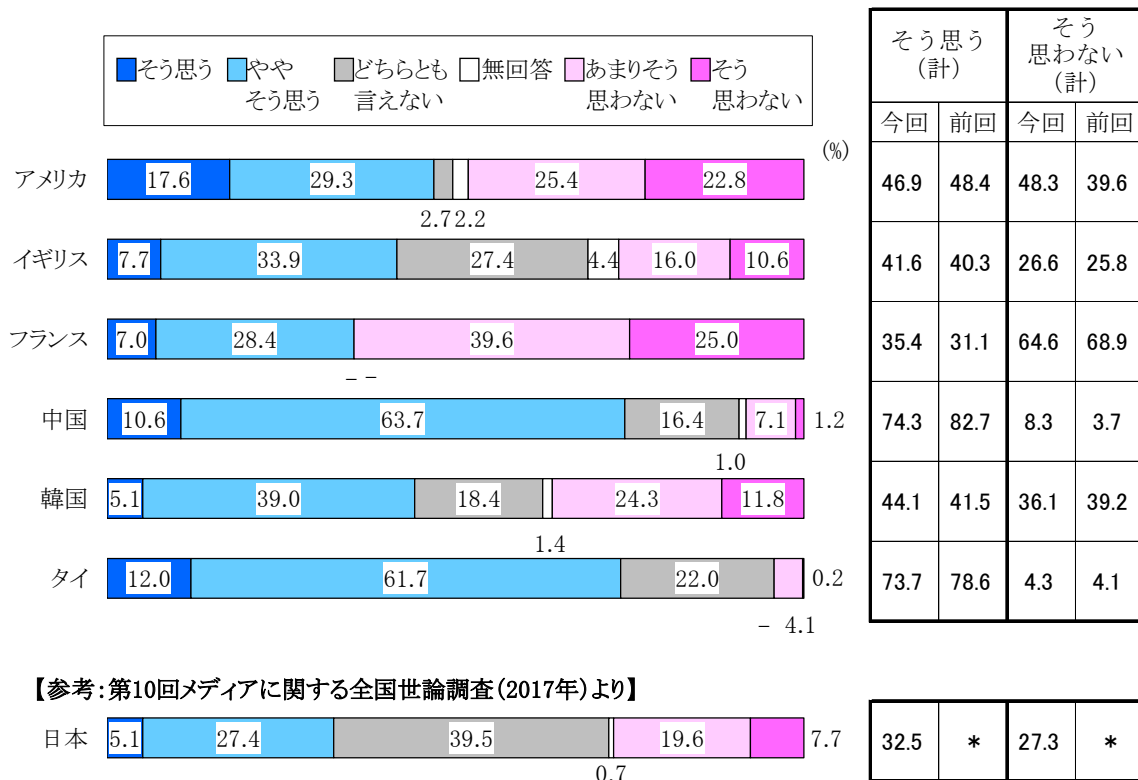
図表10 「将来の新聞の役割が小さくなっていく」の割合(経年変化)



「世論調査は、人々の意見を正しく反映している」と思うのは、中国・タイで 70%台、アメリカ・イギリス・フランス・韓国は 50%を下回る

- ・テレビ・新聞などのマスメディアで報道される世論調査の結果は、人々の意見を正しく反映していると思うか、尋ねたところ、「そう思う」が中国・タイで 70%台であったが、アメリカ・イギリス・フランス・韓国で 50%を下回った。昨年 11 月に新聞通信調査会が実施した「メディアに関する全国世論調査」では、「そう思う」が 32.5%であった。
- ・フランスでは世論調査が人々の意見を正しく反映していると思わない人が 60%強。

図表 11 世論調査について（問 15）



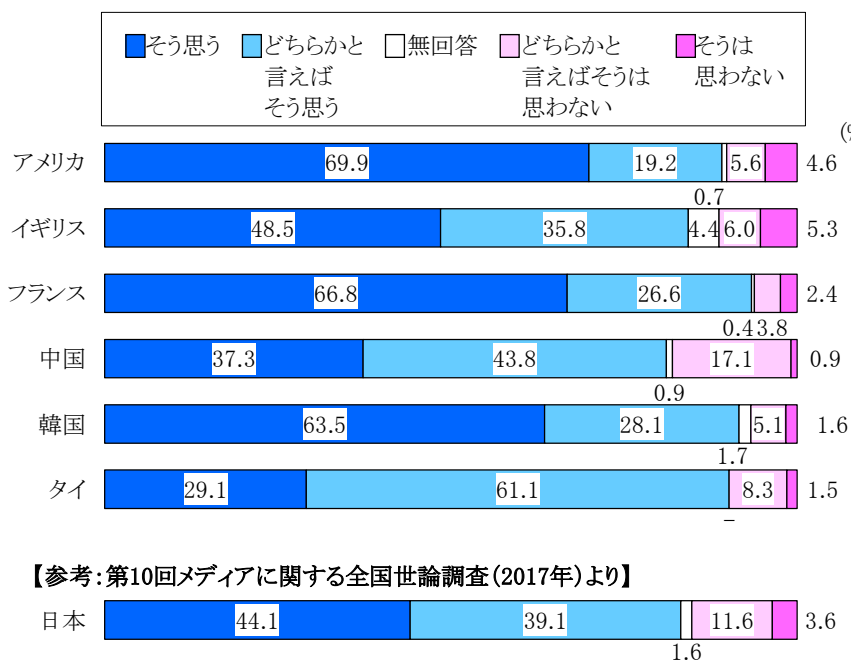
注：「第 10 回メディアに関する全国世論調査（2017 年）」は 2017 年 11 月に全国 18 歳以上の 5,000 人を対象に訪問留置法で行い 3,169 人（有効回収率 63.4%）から回答を得た。

「報道の自由は常に保障されるべきだ」に各国 80%以上の支持があるも、「報道の自由を振りかざしている」にも 50%以上が賛同

- ・「報道の自由は常に保障されるべきだ」については、「そう思う」がフランス・韓国・タイで90%を超え、アメリカ・イギリス・中国で80%台。
- ・「現在の報道を見ていると、圧力をかけられても仕方がないと思う」については、「そう思う」が中国で80.4%、次いでタイで77.0%。アメリカ・イギリス・フランス・韓国で50%を超えた。

図表 12 報道の自由について（問 14）

（1）報道の自由は常に保障されるべきだ

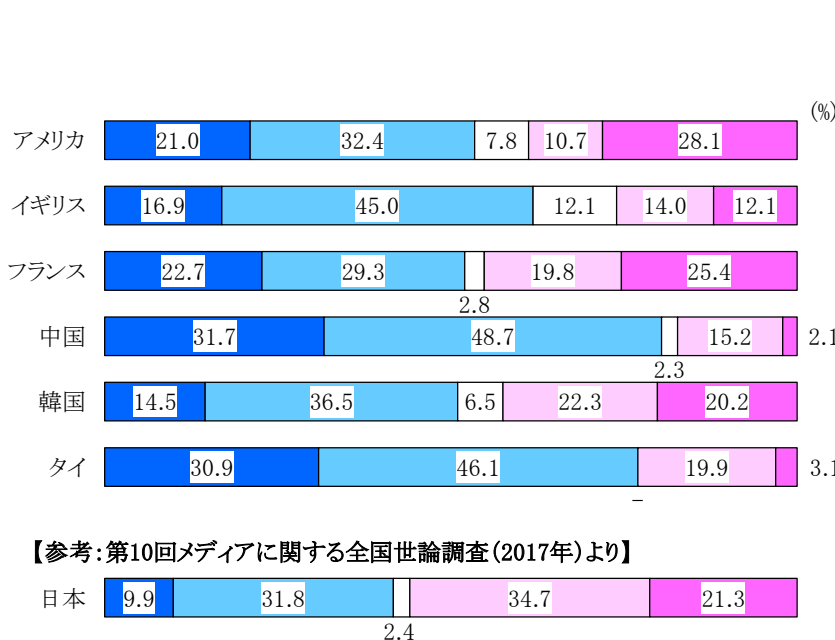


そう思う (計)			そうは思わない (計)		
今回	第3回	第2回	今回	第3回	第2回
89.1	90.4	91.1	10.2	8.4	7.6
84.3	79.9	84.0	11.3	11.0	12.9
93.4	92.8	93.1	6.2	6.0	5.3
81.1	85.4	86.5	18.0	13.2	12.8
91.7	90.5	90.5	6.6	8.6	7.4
90.2	88.2	84.7	9.8	11.8	15.3

【参考：第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)より】

83.2	82.6	83.2	15.2	15.4	14.0
------	------	------	------	------	------

（2）現在の報道を見ていると、圧力をかけられても仕方がないと思う



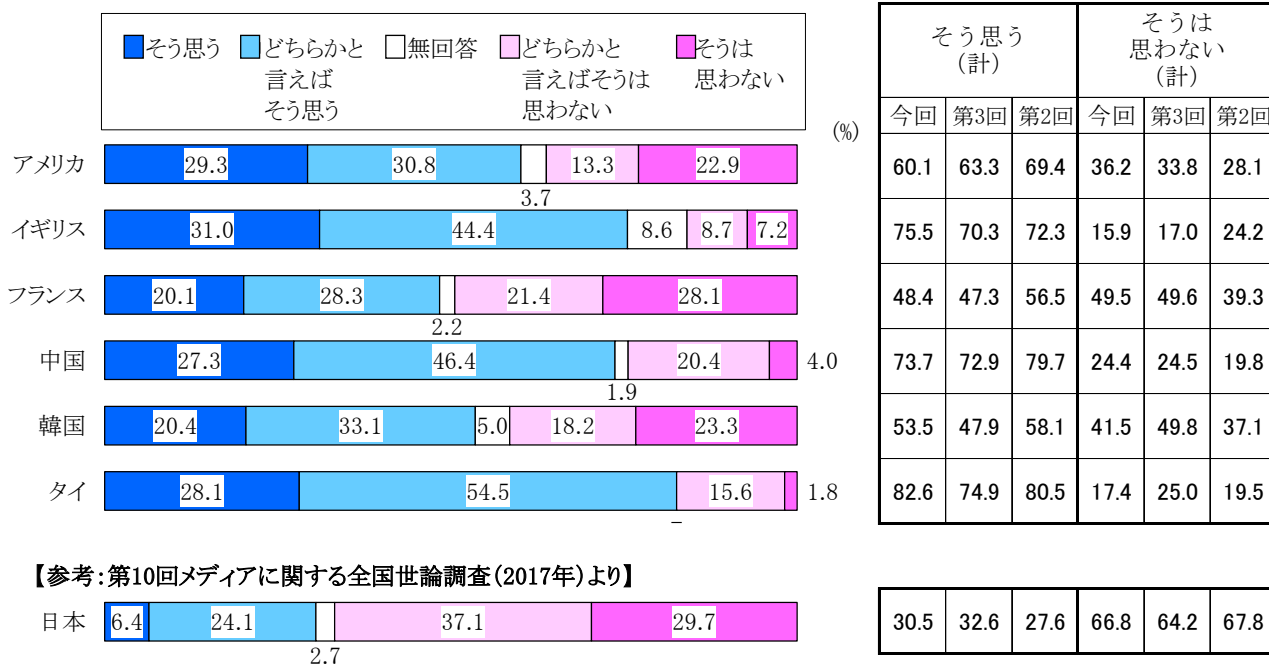
【参考：第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)より】

そう思う (計)			そうは思わない (計)		
今回	第3回	第2回	今回	第3回	第2回
53.4	50.7	51.3	38.8	43.1	42.7
61.9	58.2	62.2	26.1	24.0	28.0
52.0	50.6	54.8	45.2	46.5	40.5
80.4	81.9	87.7	17.3	15.4	11.6
50.9	47.1	50.4	42.5	50.0	42.1
77.0	75.0	70.1	23.0	25.0	29.9

41.7	40.7	35.2	56.0	56.2	60.4
------	------	------	------	------	------

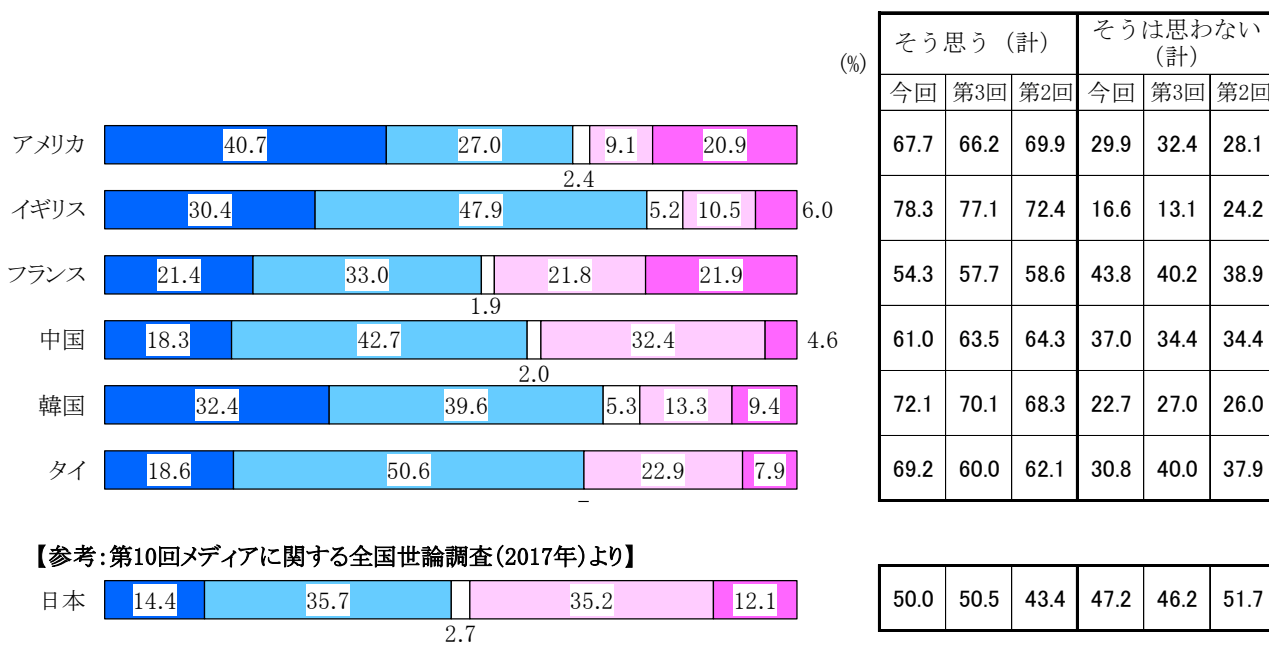
- ・「政府が国益を損なうという理由でメディアに圧力をかけるのは当然だと思うか」については、「そう思う」がタイで80%超、イギリス・中国で70%台、アメリカで60%、韓国で50%強。フランスで50%を下回った。
- ・「メディアは報道の自由を振りかざしていると思うか」については、「そう思う」がイギリス・韓国で70%台。アメリカ・フランス・中国・タイで50%を超えた。

(3) 政府が国益を損なうという理由でメディアに圧力をかけるのは当然だと思う



【参考:第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)より】

(4) メディアは報道の自由を振りかざしていると思う



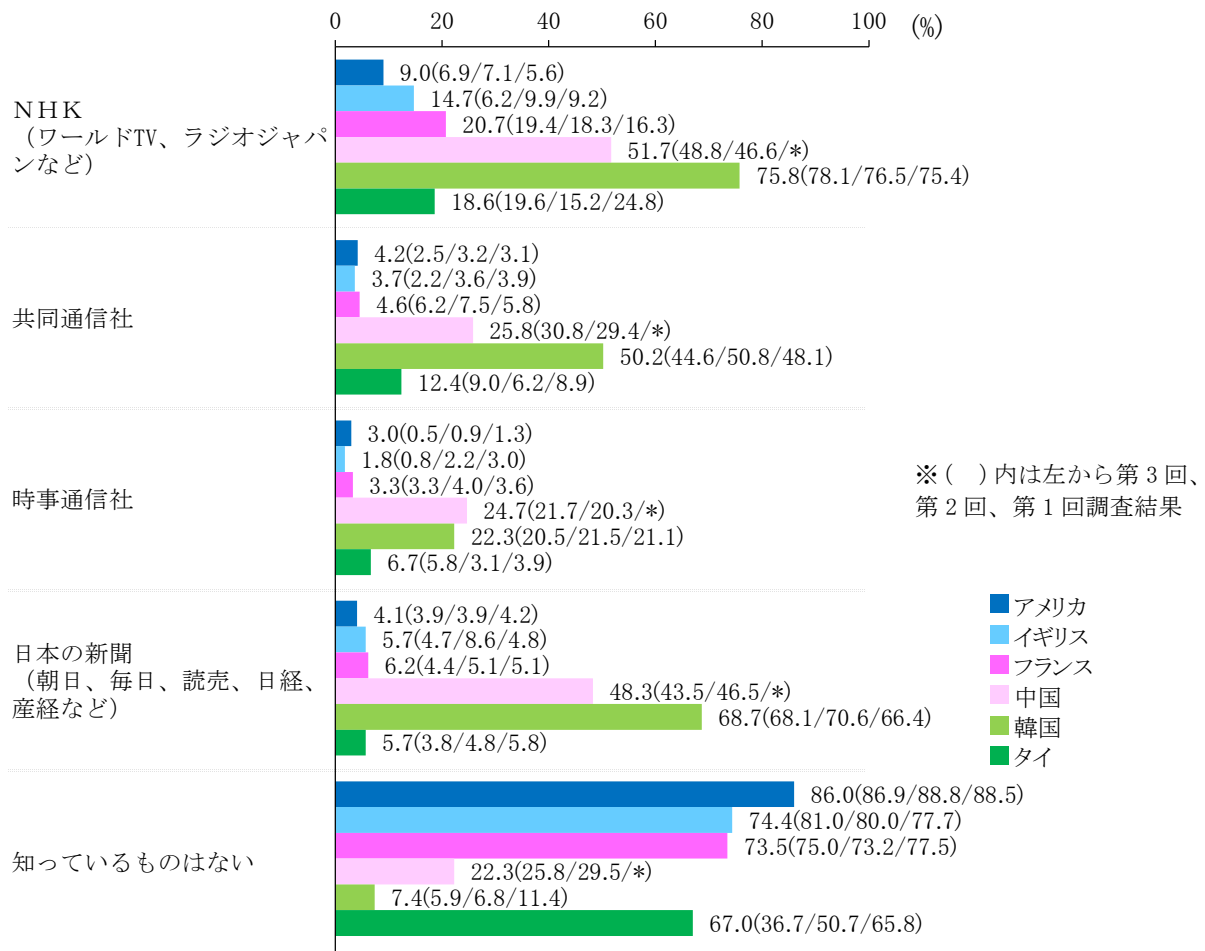
【参考:第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)より】

注:「第10回メディアに関する全国世論調査(2017年)」は2017年11月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い3,169人(有効回収率63.4%)から回答を得た。

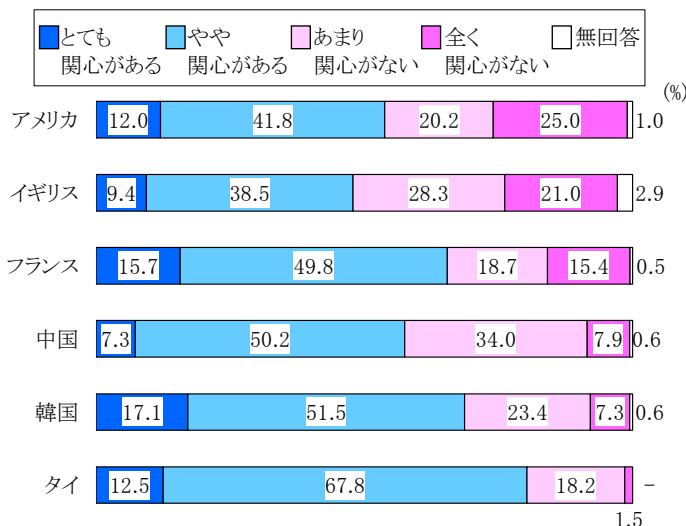
日本のメディアの認知度は韓国が突出

- 日本のメディアの認知度は韓国が突出して高く、中国がそれに次いだ。欧米3カ国では「知らない」人が70%以上、アメリカでは86%。知っているメディアでは、「NHK(ワールドTV、ラジオジャパンなど)」がすべての国で1位(複数回答)。
- 日本のことが報道されると関心を持って見聞きするのは、タイで80%。フランス・韓国で60%台、アメリカ・中国で50%台。イギリスでは50%を下回った。

図表 13 日本のメディアの認知度(複数回答)(問6)



図表 14 日本のことが報道されると関心を持つか(問7)



	関心がある(計)				関心がない(計)			
	今回	第3回	第2回	第1回	今回	第3回	第2回	第1回
アメリカ	53.8	60.5	56.5	54.2	45.2	38.8	42.8	45.3
イギリス	47.9	43.7	58.8	56.7	49.2	46.0	39.4	41.7
フランス	65.4	61.4	63.1	65.8	34.1	38.2	35.6	33.8
中国	57.5	64.6	61.1	*	41.9	35.4	38.4	*
韓国	68.7	71.4	68.4	63.4	30.7	28.3	31.1	35.7
タイ	80.3	79.9	84.2	94.1	19.7	19.9	15.8	5.8

日本についての知識や情報の入手先は「自国のテレビ、新聞、雑誌」、メディアに期待する報道内容は「科学技術」

- 日本についての知識や情報の入手先は、中国以外の5カ国で「自国のテレビ、新聞、雑誌」が1位、「インターネット」が2位（複数回答）。
- 中国では「インターネット」が1位、「自国のテレビ、新聞、雑誌」が2位。
- 日本に関する報道で、メディアに期待する内容を挙げてもらった。1位は、タイを除く5カ国では「科学技術」、タイでは「観光情報」。2位には、アメリカ・イギリスは「国際協力、平和維持活動」、フランスは「生活様式や食文化」、中国は「観光情報」、韓国は「政治、経済、外交政策」、タイは「科学技術」が続いた。

図表 15 日本に関する情報の入手先（複数回答）（問4）

(%)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
アメリカ	自国のテレビ、新聞、雑誌 52.9 (39.1/41.9/40.3)	インターネット 35.2 (21.5/20.7/20.6)	自分の家族や親戚、知人 27.1 (15.0/19.2/22.5)	学校教育 23.8 (12.0/15.4/18.3)	日本人の友人、知人 21.2 (12.9/15.1/17.1)	訪日経験 9.7 (7.2/9.0/7.8)
イギリス	自国のテレビ、新聞、雑誌 59.7 (54.3/78.7/76.4)	インターネット 28.3 (27.3/44.3/41.7)	自分の家族や親戚、知人 10.9 (10.6/28.7/20.9)	学校教育 8.0 (8.1/28.6/21.7)	日本人の友人、知人 4.9 (5.2/15.2/13.0)	訪日経験 2.1 (2.4/5.7/6.6)
フランス	自国のテレビ、新聞、雑誌 78.8 (83.4/87.7/87.4)	インターネット 47.1 (48.6/50.1/46.4)	学校教育 37.6 (37.8/41.7/41.1)	自分の家族や親戚、知人 36.2 (35.5/38.9/31.7)	日本人の友人、知人 17.3 (16.0/18.9/14.7)	訪日経験 5.1 (4.4/4.0/4.6)
中国	インターネット 83.6 (83.3/75.3/*)	自国のテレビ、新聞、雑誌 74.3 (77.6/77.5/*)	自分の家族や親戚、知人 27.4 (23.7/29.4/*)	学校教育 18.9 (23.9/27.4/*)	日本人の友人、知人 10.7 (13.3/14.9/*)	訪日経験 9.1 (10.9/11.6/*)
韓国	自国のテレビ、新聞、雑誌 72.5 (73.0/74.6/66.8)	インターネット 49.0 (51.4/44.2/43.2)	自分の家族や親戚、知人 16.7 (16.4/12.9/10.7)	学校教育 14.8 (14.8/11.3/6.1)	訪日経験 12.3 (13.6/11.4/9.3)	日本人の友人、知人 7.3 (9.0/9.4/5.8)
タイ	自国のテレビ、新聞、雑誌 89.5 (90.8/95.1/94.2)	インターネット 58.1 (54.7/43.6/43.7)	自分の家族や親戚、知人 30.7 (37.5/42.2/31.5)	学校教育 5.9 (4.9/1.9/5.8)	日本人の友人、知人 3.4 (6.1/6.8/6.5)	訪日経験 2.2 (2.6/1.5/2.5)

※()内は、左から第3回調査、第2回調査、第1回調査の結果

図表 16 メディアに期待する報道内容（問8）

(%)

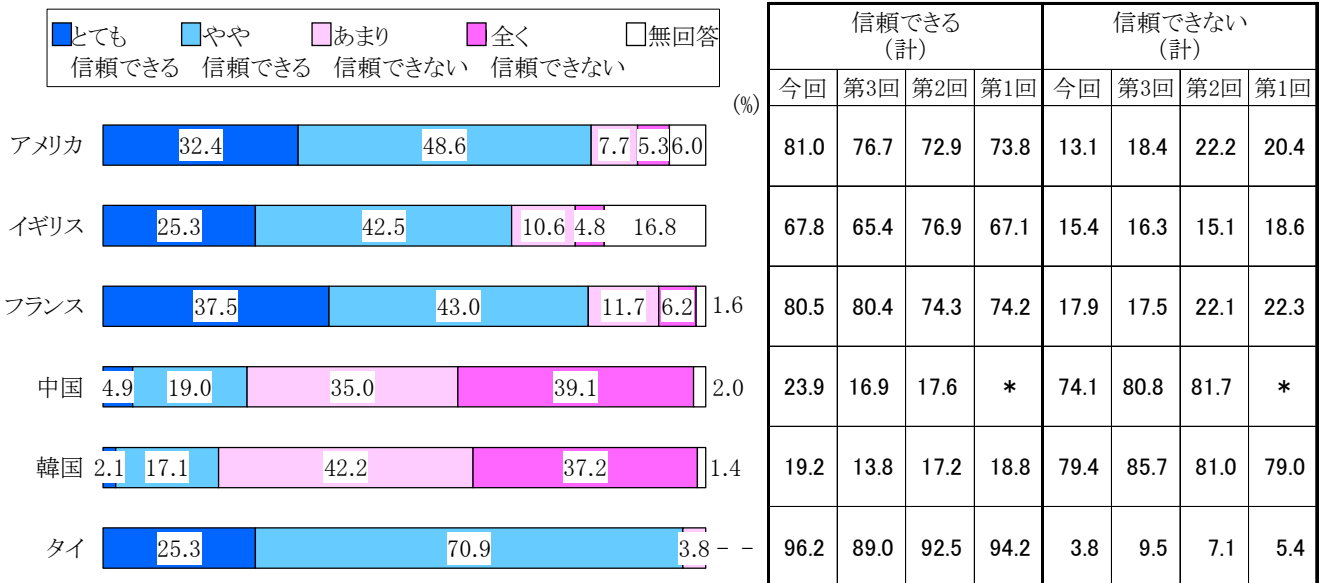
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
アメリカ	科学技術 78.9(84.0)	国際協力、平和維持活動 72.8(79.1)	政治、経済、外交政策 69.9(74.2)	歴史と文化 64.4(63.8)	生活様式や食文化 62.2(59.8)	観光情報 59.2(58.6)	ファッション、アニメ、音楽 46.2(42.9)
イギリス	科学技術 58.3(55.6)	国際協力、平和維持活動 54.5(49.0)	歴史と文化 47.3(42.9)	政治、経済、外交政策 45.9(42.1)	生活様式や食文化 45.1(39.1)	観光情報 43.1(35.6)	ファッション、アニメ、音楽 32.1(25.1)
フランス	科学技術 54.0(56.2)	生活様式や食文化 47.1(44.0)	国際協力、平和維持活動 45.2(46.4)	歴史と文化 44.9(45.6)	政治、経済、外交政策 43.1(41.2)	観光情報 36.9(37.1)	ファッション、アニメ、音楽 26.1(26.3)
中国	科学技術 69.8(74.1)	観光情報 65.7(65.1)	ファッション、アニメ、音楽 64.1(66.5)	生活様式や食文化 59.6(61.9)	歴史と文化 46.3(48.8)	政治、経済、外交政策 42.6(51.0)	国際協力、平和維持活動 25.2(25.8)
韓国	科学技術 85.6(88.7)	政治、経済、外交政策 81.4(84.4)	国際協力、平和維持活動 78.8(77.9)	歴史と文化 67.2(67.2)	生活様式や食文化 61.7(59.0)	観光情報 60.7(57.6)	ファッション、アニメ、音楽 42.1(41.5)
タイ	観光情報 90.7(84.2)	科学技術 86.4(82.3)	生活様式や食文化 83.9(79.9)	国際協力、平和維持活動 80.8(75.1)	歴史と文化 80.1(76.2)	政治、経済、外交政策 79.1(78.3)	ファッション、アニメ、音楽 61.8(67.8)

※()内は前回調査の結果

日本に対する信頼度は中国・韓国で 20%前後

- ・ 日本について「信頼できる」はタイで 96.2%、アメリカで 81.0%、フランスで 80.5%。イギリスは 67.8%。中国は 23.9%、韓国は 19.2%と極端に低かった。
- ・ 昨年度からの変化では、タイで 7.2 ポイント、中国で 7.0 ポイント、韓国で 5.4 ポイント、アメリカで 4.3 ポイント、イギリスで 2.4 ポイント、いずれも信頼感が増した。

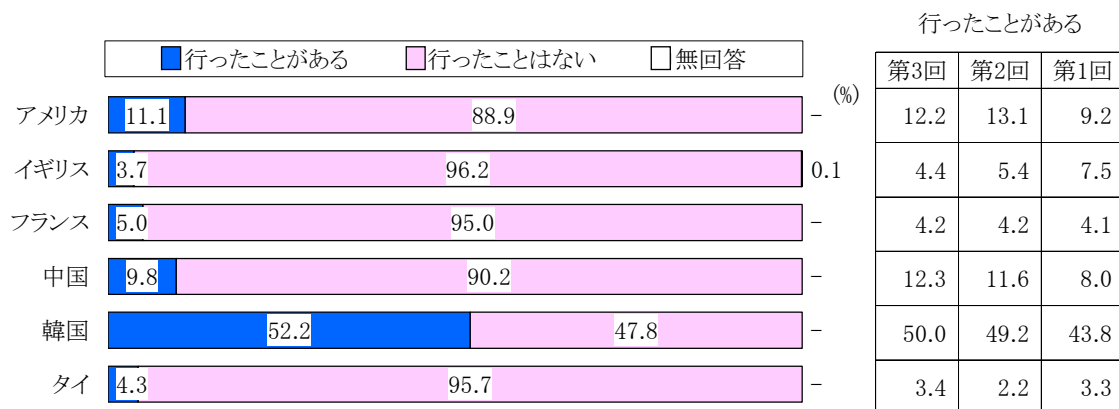
図表 17 日本の信頼度（問 3）



訪日経験があるのは韓国で 52%、アメリカ・中国は 10%前後

- ・ 訪日経験があるのは韓国で 52.2%。アメリカ・中国は 10%前後。イギリス・フランス・タイは 5%以下。

図表 18 訪日経験（問 5）



アメリカへの好感度はイギリス・フランスで上昇に転じた 中国への好感度は欧米3カ国で上昇 日本への好感度はアジア3カ国で上昇 中国・韓国は相互間の好感度が昨年到现在き低下

- ・ イギリス・フランスでの、アメリカへの好感度は、前回調査で前々回調査より 20 ポイント前後低下したが、今回調査では上昇に転じ、フランス 5.3 ポイント、イギリス 3.0 ポイントの上昇となった。イギリス・フランスは相互に好感度が高く、フランスのイギリスへの好感度は 6.8 ポイントの上昇となった。
- ・ 中国と韓国の相互の好感度は、共に前回調査で大きく低下したが、今回もさらに低下し、共に 30% 台。
- ・ 日本に対する好感度はタイ 98.3%、アメリカ 83.6%、フランス 81.1%、イギリス 66.6%。タイは 6.7 ポイントの上昇となったが、アメリカ・フランス・イギリスはわずかながら低下。中国・韓国は前回調査での好感度低下から今回調査では上昇に転じ、中国は 4.5 ポイント上昇の 27.9%、韓国は 8.3 ポイント上昇の 38.3%。
- ・ アメリカは依然イギリス、日本、フランスへの好感度が高いが、中国への好感度が 5.6 ポイント上昇し 55.6%。中国はフランス・イギリス・タイ・アメリカの順に、韓国はアメリカ・イギリス・フランス・タイの順に、タイは日本・イギリス・フランス・アメリカ・韓国・中国の順に 50%以上の好感度。

図表 19 各国間の好感度（問 2）－「好感が持てる」と答えた比率

		1位	2位	3位				
		(%)						
【今回】		対 象 国						
		日本	米	英	仏	中国	韓国	タイ
実 施 国	米	83.6	*	84.9	76.0	55.6	44.9	64.7
	英	66.6	62.9	*	70.1	55.7	33.6	55.6
	仏	81.1	58.8	78.0	*	53.6	59.2	70.3
	中国	27.9	55.9	76.8	84.7	*	35.7	62.3
	韓国	38.3	73.3	73.0	72.9	36.5	*	56.5
	タイ	98.3	75.7	88.6	83.7	52.7	75.5	*
【2017年】		対 象 国						
		日本	米	英	仏	中国	韓国	タイ
実 施 国	米	84.5	*	87.2	74.8	50.0	42.2	63.5
	英	68.7	59.9	*	71.1	52.0	28.2	54.9
	仏	81.2	53.5	71.2	*	45.3	54.7	64.0
	中国	23.4	58.6	76.5	82.4	*	39.0	56.9
	韓国	30.0	74.2	72.2	69.9	45.0	*	46.9
	タイ	91.6	82.2	85.2	80.2	54.9	66.9	*
【2016年】		対 象 国						
		日本	米	英	仏	中国	韓国	タイ
実 施 国	米	78.6	*	85.7	81.0	42.1	39.5	57.7
	英	69.7	79.4	*	80.2	49.6	30.5	62.5
	仏	73.2	76.0	79.8	*	44.5	49.8	59.7
	中国	27.8	57.5	82.6	82.3	*	74.8	61.9
	韓国	32.3	79.8	71.3	70.1	55.6	*	48.3
	タイ	90.8	79.4	85.6	76.2	51.5	66.8	*

		5ポイント以上の上昇				5ポイント以上の低下		
【今回－2017年】		対 象 国						
		日本	米	英	仏	中国	韓国	タイ
実 施 国	米	-0.9	*	-2.3	1.2	5.6	2.7	1.2
	英	-2.1	3.0	*	-1.0	3.7	5.4	0.7
	仏	-0.1	5.3	6.8	*	8.3	4.5	6.3
	中国	4.5	-2.7	0.3	2.3	*	-3.3	5.4
	韓国	8.3	-0.9	0.8	3.0	-8.5	*	9.6
	タイ	6.7	-6.5	3.4	3.5	-2.2	8.6	*
【2017年－2016年】		対 象 国						
		日本	米	英	仏	中国	韓国	タイ
実 施 国	米	5.9	*	1.5	-6.2	7.9	2.7	5.8
	英	-1.0	-19.5	*	-9.1	2.4	-2.3	-7.6
	仏	8.0	-22.5	-8.6	*	0.8	4.9	4.3
	中国	-4.4	1.1	-6.1	0.1	*	-35.8	-5.0
	韓国	-2.3	-5.6	0.9	-0.2	-10.6	*	-1.4
	タイ	0.8	2.8	-0.4	4.0	3.4	0.1	*

知っている日本人、中国・韓国・タイは「安倍晋三」、アメリカ・イギリス・フランスは「昭和天皇」が1位

- ・ 知っている日本人の名前を1人挙げてもらったところ、中国・韓国・タイは「安倍晋三」が1位。アメリカ・イギリス・フランスは「昭和天皇」が1位。
- ・ 2位には「安倍晋三」（アメリカ）、「オノ・ヨーコ」（イギリス）、「ナルト（漫画「ナルト）」」（フランス）、「福原愛」（中国）、「伊藤博文」（韓国）、「明仁天皇」（タイ）と分散。

図表 20 知っている日本人（各国上位 10 位）（問 1） ※各欄右端の数字はその人名を挙げた人の数

アメリカ (回答者275人)	イギリス (回答者283人)	フランス (回答者479人)
昭和天皇 43	昭和天皇 84	昭和天皇 97
安倍晋三 29	オノ・ヨーコ 25	ナルト(漫画「ナルト」) 29
イチロー 14	安倍晋三 9	ドラゴンボール／孫悟空 27
ジョージ・タケイ (日系アメリカ人2世の俳優) 10	カズオ・イシグロ 7	宮崎駿 26
山本五十六 9	宮崎駿 5	ピカチュウ／ポケモン 11
オノ・ヨーコ 8	村上春樹 4	鳥山明 10
明仁(今上)天皇 6	黒澤明 3	KENZO(高田賢三・デザイナー) 8
宮本武蔵 6	天皇 3	安倍晋三 8
森本正治(シェフ「料理の鉄人」) 5		黒澤明 7
クリスティ・ヤマグチ(スケート) 4		シティーハンター 6

中国 (回答者962人)	韓国 (回答者652人)	タイ (回答者928人)
安倍晋三 346	安倍晋三 385	安倍晋三 179
福原愛 70	伊藤博文 84	明仁(今上)天皇 79
山口百恵 40	豊臣秀吉 39	深田恭子 56
宮崎駿 28	浅田真央 13	ドラえもん 44
村上春樹 27	村上春樹 10	天皇 40
小泉純一郎 26	徳川家康 7	蒼井そら 37
矢野浩二(俳優) 24	木村拓哉 6	X-Japan 22
酒井法子 23	天皇 5	愛子内親王 21
高倉健 17	小泉純一郎 4	首相 20
東野圭吾 14	昭和天皇 4	小堀(タイの小説「クーカム」登場人物) 20
山本五十六 14		
田中角栄 14		